

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://www.wing-f.co.jp>

ウイング フィールド

第18回関西現代演劇俳優賞(2)

太田 耕人

第8回むりやり堺筋線演劇祭参加

乗劇

『併置』への御誘い

作/伊地知克介 演出/森本洋史(桃園会)

5/9(月) 7:00

10(火) 7:00

「そのバックネットのバランス」

作/佃典彦(B級遊撃隊) 演出/岡田和歌治(雲の劇団雨蛙)

「お顔」

出演/雲の劇団雨蛙 他

料金/2,000円(前売・当日とも)

第8回むりやり堺筋線演劇祭参加

若劇

「M3D1」

作・演出/ザイマン

「里帰り」

22(日) 1:00

6:00

作・演出/Amiel Adler

「夢殺人」

作・演出/武玉ゆき

「言葉をなくした少女」

出演/劇団ルービック◇キューブ

料金/前売2,000円 当日2,300円

声の記憶というものがある。舞台をみたあと永く経っても、その俳優の声に耳についてはなれない。つねづね現代演劇は身体性と視覚性でなりたっていると言いつづけている私にして、そうなのである。

その人の身体と人生に裏うちされ、さまざまな役を通じて鍛えられてきた声。記憶に残るのはそういう声で、いわゆる美声ではない。

男優賞受賞の三田村啓音が、伏兵コード「我が行路」で扮した末っ子は、過疎の町で失業し、父と同居するうちに父を看取る。兄や姉は早々と家を売ろうとするが、父の死後すぐに家を手放すことに違和感をおぼえて、煩悶する。いっほう、空の驛舎「追伸」の第2話「児童公園にて」では、地べたにうつ伏せで横たわり続ける、不思議な男を演じた。男はじつはとうに震災で亡くなっているのだが、「地球の裏側をのぞいているのだ」と言う。

前者では兄や姉への服従を幼いころから刻みつけられた身体を、後者では死後硬直したかのように固まった身体を保ちつづけた。喉をしぼった独特な発声で、その身体にふさわしい声をつくってせりふを語った。打ちひしがれた気持ち、屈折した気持ちがせりふに滲み、三田村以外にその役を演じる者はいないと思われた。

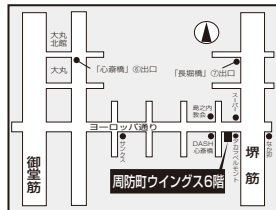
女優賞受賞の福井玲子は、早口だが、独特の低めの声が、せりふに落ちついた印象をあた

える。現代演劇レトロスペクティブのPM/飛ぶ教室「とりあえず、ボレロ」で、機智にあふれた写真館の女主人、木南ふねを造形。山藤貴子演じる恋敵との丁々発止の応酬で、思わぬ真実が明かされてゆくのがなんともみごとだった。福井のせりふは歯切れがよくて小気味がいいが、ふとした声の調子や言葉尻に「してやったり」とでも言いたげな無邪気な才気がこぼれて、えもいわれぬ魅力があった。久々の出演で今回の受賞となったが、もっと頻繁にその舞台をみたいと願う女優である。

男優賞候補となった緒方晋は、iaku「Walk in closet」で、同性愛を疑われる大学生を偏見もあらわに糾弾する男を演じた。とりわけ街場の大阪弁をしゃべるときの、濁った、味のある声がたまらない。藤原大介は演劇計画II「また愛か」で、女兒誘拐の前科がある主夫を演じた。感情をのせない、むしろ平板な抑揚で、家族のために二度と罪は犯さないと断言して、ぶれない意思を感じさせた。人間座「最果ての地よりさらに遠く」での演技も安定感があった。

女優賞候補に挙がった高安美帆は、エイチエムピー・シアターカンパニー「桜姫—歌ひ鳴く雉ノ行方」で男の二役、しかも高僧・清玄とならず者の権助という対照的な役をこなして、別人とみせた。山本麻貴はMONO「ぶた草の庭」の裕香役で、同じ鳥に隔離されている男性への好意を、表情や声の調子にごくさりげなく、そして効果的にのぞかせた。(敬称略)

(演劇評論家、京都教育大学教授)



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち
周防町ウイングス